

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

反古裏之書第三冊

Ms. B.
1159
(7)



一 書方二言曲

一 新ありの事

一 心腹をわたりて可なり

一 志を共にし共なりとも可なり

一 人の身に可なりとも可なり

一 吾らと可なり

書名

一言外三言曲
元安禮鳳齋

一 ぬきとむきふき 又さくらき

一 ぬきとむきのき

一 ぬきとむきのき

一 ぬきとむきのき

一 ぬきとむきのき

一 ぬきとむきのき

一 ぬきとむきのき

六

一 ぬきとむきのき

一 ぬきとむきのき

一 ぬきとむきのき

一 ぬきとむきのき

一 ぬきとむきのき

一 ぬきとむきのき

一 ぬきとむきのき

一三言はしる事

一四言はしる事

一五言はしる事

一六言はしる事

の字

一七言はしる事

一八言はしる事

一九言はしる事

よつとや

一二十言はしる事

一十一言はしる事

一十二言はしる事

一十三言はしる事

一十四言はしる事

一十五言はしる事

能く云ひに二

- 一 能く下ニあるきこひしと云ふ事
- 一 能くのこころの事
- 一 能くして三方をかたむかす事つとてみ也
- 一 能くしりてふ事秘事也
- 一 能くはく事
- 一 能くこの能くはく事秘事也

一 つき^ハさかしてさくらりり能くはく事秘事也

時能くさかす事

一 能く陽に秘事とみ事

一 能く人のしるは芝居とみ事秘事也

能くはく事

一 能くはく事秘事也

- 一 風 フウ 三 ミ くらそ 社 ヤ 神 カミ くら ク 心 ココロ 事
- 一 序 シヨ 破 ハ 急 キウ 九 ク 阪 ハン 大 ダイ 事 コト 也 ナリ 行 ユク 舟 フネ 事 コト 也 ナリ
- 一 け ケ くら ク 事 コト 也 ナリ け ケ くら ク 事 コト 也 ナリ け ケ くら ク 事 コト 也 ナリ
- 一 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ
- 一 為 ナリ 流 リウ 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ
- 一 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ
- 一 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ

- 一 因 イン 言 ゴン の 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ
- 一 け ケ くら ク の 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ
- 一 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ
- 一 調 テウ 二 ニ 様 ヤウ 三 サン 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ
- 一 扇 セン 拍 パク 子 シ 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ
- 一 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ 事 コト 也 ナリ

一 世いさーいさの福の事

一 伊ちくろいもれういひめくろいふら

五甲事

いさねの秋の光

一 ありきのうらうひらうの事

世にありきうらうひらう

一 ありのちいしひらうの事

一 下色^色舞とらんとう一色しらり

一 一色のまうがらうとせうがらう

事

一 一色いさのたきふたの事

一 一色いさのたきふたの事

一 一色いさのたきふたの事

一 一色いさのたきふたの事

一 一色いさのたきふたの事

一 一色いさのたきふたの事

一 一色いさのたきふたの事

とくし

毛端私珍抄

目録章一 事二

所とつた名と事

夏氏昔能くはうりやうふいふ事

外白のまふりて能くする事

動とかりのまゝの事

俄方より事能くさう前夜吹

逆事 へんさうと事

位多の事と事 能くさうと事

尺八のこゝと池坊の菊のこゝと 胡糸

てはふと信く尤の能く事 御所

延子習のこゝと能く事と事と 菟丸

能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり

能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり

能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり
能く事なり

ちてらぬ事んのかた人のさうさうさうと
さうのさうと ぬらにち事なりて白
のさうさうと ぬらにち事なりて白
さうの事 ぬらにち事なりて白
さうの事 ぬらにち事なりて白
信のさうさうと ぬらにち事なりて白
事 車のさうさうと ぬらにち事なりて白

事 柳子さうの事 ぬらにち事なりて白
柳子さうの事 ぬらにち事なりて白
さうの事 ぬらにち事なりて白

一書片一

一二曲三片 事 二曲ハ方楽 三片ハ
セウ候事なり

一 形神一也事也はるる此のりらる

一 心そそらる吾さる事ニぬ事

一 ありた神のせう 脈のまのせう

一 一移りりやまのやうなるせう

一 神神のせう

一 本うりすさるるうへ ちかるるるる

一 面(さる) ちん

一 一之のほらる

一 一居るるる

一 一葉のりらる

一 一ちる

一 一かりり

一 一終

一 一ゆりりるるるるのや

一 三十一(一)

一 三十一(二)

一 三十一(三)

一 三十一(四)

一 三十一(五)

一 三十一(六)

一 三十一(七)

一 三十一(八)

一 三十一(九)

女に方の一七事

一 方一七事の事

一 方一七事の事

一 方一七事の事

一 冬

一 舞のり

一 一のり

一 一のり

一 一のり

一 一のり

一 一のり

一 一のり

一 一のり

一のり

一のり

一のり

一のり

一のり

一のり

一 常とあきつる序

一 元とあきつるの事

一 元とあきつるの事

一 元とあきつるの事

一 元とあきつるの事

一 元とあきつるの事

三行先也

一 元とあきつるの事

一 元とあきつるの事

一 元とあきつるの事

一 元とあきつるの事

一 元とあきつるの事

- 一 つんのさう ちのつらやう 乙さうの事
- 一 地のつんさう 喜曲別紙さう
- 一 ちあさの事
- 一 一切の形ふちあさとをさうにふたつあり
- 一 女房前 壱久さう 子考 世をさうの事
- 一 天女の席の拍子女の席ののこしついであり
- 一 ちんりやう

- 一 うさ切の事
- 一 席の拍子
- 一 拍子の前後とくさう事 百方さう
- 一 子考のめまきさう考の法紙 舟の會さう
- 一 ちあさり さあ也 十かきゆりて玉田はみ
- 一 ちんりやう 白とわさえさう
- 一 ちんりやうの拍子

一 舞と鬼の物子つららの事

一 曲舞やらの用とてしくと諸物子肝也

一 扇物子とて入右事也とてあはるる事とて

つたはるる事とて打事教とてあはるる事とて

らす世との物子つららとてをしくら

る事とてはるる事とてはるる事とて

らす世との物子つららとてをしくら

る事とてはるる事とてはるる事とて

らす世との物子つららとてをしくら

る事とてはるる事とてはるる事とて

らす世との物子つららとてをしくら

る事とてはるる事とてはるる事とて

らす世との物子つららとてをしくら

る事とてはるる事とてはるる事とて

らす世との物子つららとてをしくら

一書柳子才一

一柳子と云事肝常也云身大と柳子
はあうら及肉骨と云柳子ハ骨也柳子
踏しりやしと云ふのこしやし也ちうふ
と云後と云事柳子也馬よのか
者のうらやと云事てはるのこし

と云事也ちう事ハ身大と云
ちうふらからと云事柳子と云
我物と云事と云事柳子と云事
かしと云事と云事柳子と云事
又肝檢と云事と云事柳子と云事
いすり也と云事也

一柳子踏柳子と云事

- 一 柳子の春女は好く半 二つり 三つり
- 一 初中段 三つり 四つり 五つり 六つり 七つり
- 一 春來運を落目の前よりや 是也
- 一 鬼やうしう 是也
- 一 三つり 柳子の春女は次より三つり
- 一 やまうしう 三つり 四つり 五つり 六つり 七つり
- 一 柳子の春女は三つり

三曲

一 書才一 是也

- 一 二曲 三曲 四つり 五つり 六つり 七つり 八つり 九つり
- 一 三曲 四つり 五つり 六つり 七つり 八つり 九つり
- 一 四つり 五つり 六つり 七つり 八つり 九つり
- 一 五つり 六つり 七つり 八つり 九つり
- 一 六つり 七つり 八つり 九つり
- 一 七つり 八つり 九つり
- 一 八つり 九つり
- 一 九つり

とれいひいふる子申 烈らとれい
夫人のうききせはさつる也 実を
思ふと人 三つ橋のむらとてさくぬ
とくふのさつるあゆまへん ぬの
ういひいふつらう申 龍骨
庭茶袋傷 遊去 祿云とくぬふ
申 父のやうにいふる申 武 柳子

のねむ申 柳子うくくへん 柳子
と柳子 柳子 柳子とけりうと
申 ひかりしのとふつらひいひ
ありやう ぬれ一寸二寸のこへん
柳 琴いひのぬれたのぬの
皮肉骨 幸 柳子 又 幸 柳子
とつらあり 書面のとれいとの茶

とらぬわづてらぬ所をいふと
てらぬのこえを花者のあつた
うたにうたひかたあつたうたうた
あつたうたうたと
あつたのこえとしてうたひうた
あつたうたの二道八歌と
あつた

秘

一 柳子ニツキハルハ事
一 位者好ハ事 能ハ事
一 柳子ニツキハルハ事
一 柳子ニツキハルハ事

一 能くも善曲かとうりさ事ありさ

事それともり持事

一 中なる事ら事

一 人新らるかつと空方て他一とらさ事
中なる理也

一 能くも善曲かとすくさ事
物事らるか事

一 事なる事

一 善曲らりかろう事

一 面と事ら事

一 面と人らら事

一 能くかろうの事

一 少くも持衣さす鬼さやらさ事
さあて持衣ささ事

一 くらしの所ある廟のろとくふりしはた
一 面く流ししりよきり物く徳大氏の徳
一 神くふりし事あせよきりし物也

二 西三條半せり 志願し 女身一席に

一 志願日記一

一 序

一 上より下より四巻

一 定書と校刀と事

一 物とこれ事 二反

一 四方天地ちりくき物事

一 物ニワサリニナラ事 エワノ事 下と上
二反

一 女く徳大事 二反

一 せりの徳大事 二反

一 鬼く徳大事 十反

一 物取ノ事

一 男奪ノ事

一 之^親服^レとりノ事

一 ヲ^レカ^レキ^レタ^レ能^ク又^レ大^カリ^ニカ^キタ^レ

一 取^レノ事

一 取^レノ事

一 取^レノ事

一 取^レノ事

一 取^レノ事

一 取^レノ事

一 取^レノ事

一 取^レノ事

毛端新珍抄

目録 常々事

終くまふ

執事くま

菖の事 月夜 出立り

事 同二曲三曲の事 舞の久し心

う 流連下り 世の事 荒事

修成く事 立居る事 しのびや

う 世の 風のつらやう しくさけ

のうらやう 月日女のまやう 跡方

う 瓜うてなうつての場のまやう

世のまやう ばうりゆの事 してこそ

くま事 いたち子 ぶきまふしやじ

あまりの事 世のまやう 久し心

後たふまは 鬼の事 狎子事

あまりの事 いてまりの似やの事

地さうふいふかきさうの事 先方角と云
向事 善く終ると云ふ事 其の
かきけさうの事 さうして味を血の
終る事 統理するの事 方角終ると
らさきやうに志まらう事 向
味方の終る事 向を終る事
馬の上 人のさうの俄う終ると

さうの事 向と云ふ事 向ふと云ふ事
天女の事 其の終る事 世の事
男衆の事 向と云ふ事 向の事
地さうの終る事 人の終る事 向と云ふ事
向の終る事 向と云ふ事 向の事
向と云ふ事 向と云ふ事 向の事
向と云ふ事 向と云ふ事 向の事

ありしよりなる事 神のようなりて
この前後の事 同様にそりしは
はきやう 砂もそりし 五角とす
半 風吹町の廟のようなり 神のよ
や 物とそりし みる事 登
つ事 あり 八咫ふ前とほのこのハ
利や 地よりなるものなり 実なる地か
よりなるものなり のりりりり ばいのか
つものなり ありの板にふせきす
ふんや ありつりしとらぬとらぬ
ひやとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
よや あり ありありありありあり
せい ありありありありありあり
ありありありありありありあり

場よりいふやうにさうして手紙の
ゆきやうにさうしてさうして
いふ麻ついでいふさうしてさうして
さうしてさうしてさうしてさうして
さうしてさうしてさうしてさうして
さうしてさうしてさうしてさうして
さうしてさうしてさうしてさうして
さうしてさうしてさうしてさうして

今二つにわかれさうしてさうして
今二つにわかれさうしてさうして

毛端 杉 珍抄

目録 田 案

さうしてさうしてさうしてさうして
さうしてさうしてさうしてさうして
さうしてさうしてさうしてさうして
さうしてさうしてさうしてさうして

式部卿の言事

月祿表曲

毛端私珍抄

一云、月祿表

一言曲

五言

口内

瓜多、吟分り

御子撰事

式部卿の言事 人の言事

人の言事 人の言事

人の言事 人の言事

人の言事 人の言事

人の言事 人の言事

人の言事 人の言事

人の言事 人の言事

四りありといふまゝのつらさ
分りかたのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ

つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさ

金雲八郎

夫木監

金春家所出於秦河勝歷
代秘曲傳家督一人而其他廢
子儻孫遂不能窺闥奧於
萬一矣雖然如是兄七郎
或勝不幸而早世故堯父家

傳之秘奧相續而欲傳之
子々孫々而以張萬世恁家
傳秘曲教授於我所令相
傳也今又汝家傳秘曲不
遺所令教授也莫令斷

絶矣

的曆二年 丙申

合書八月廿九日

三月廿一日

六十九日

卷之五

合書七月廿五日

庚



